



金沢市湯涌地区のまちづくりグループが移住者を増やそうと奮闘している。空き家の情報を発信したり、山里の自然や食を楽しむイベントを催したりして、約三年間で子育て世代を中心に十一世帯を呼び込んだ。人口減が深刻な中山間地域の暮らしを守るモデルにしようと、住宅などの開発が厳しく制限される「市街化調整区域」の規制緩和を目指す動きも出てきた。(押川恵理子)

# 湯涌 移住ノススメ

## 空き家情報発信 3年11世帯増

### 地域未来派

兼六園や金沢21世紀美術館から車で二十分の湯涌。温泉を抱え、竹久夢二ら文人に愛された山里にも過疎化の波が押し寄せている。「五年、十年先を考える」推進プロジェクトを始

市街化調整区域 農地や山林を保全し、市街地が無秩序に広がらないように、土地の新たな利用が自治体ごとに制限されている。生活必需品の販売店や診療所、農林水産物の加工施設などは開発許可を受ければ建築できる。1968年制定の都市計画法に基づいて指定される。金沢市では、区域に指定される前に建てた住宅は「既存宅地」として売買できるが、賃貸は認めていない。

## 規制緩和 貸家容認も検討

と、ぞっとしてしまつた。湯涌で生まれ育った北幹夫さん(六〇)は話す。危機感を持つ仲間と一緒に「花咲く湯涌まちづくりネットワーク」を始めた。と、ぞっとしてしまつた。湯涌で生まれ育った北幹夫さん(六〇)は話す。危機感を持つ仲間と一緒に「花咲く湯涌まちづくりネットワーク」を始めた。と、ぞっとしてしまつた。湯涌で生まれ育った北幹夫さん(六〇)は話す。危機感を持つ仲間と一緒に「花咲く湯涌まちづくりネットワーク」を始めた。

市街化調整区域の規制緩和によって新たな住民を呼び込む場合、大切なことは何か。

川上光彦・金沢大名大学教授(都市計画)は「住民がまちづくりの計画やルールを決めるとよいが、慎重に進めないと、無秩序な開発になりやすい」と指摘する。市街地が無秩序に広がると、インフラの整備、維持のために自治体の財政が圧迫される。

### 住民がルールづくりを

人口が減る時代、金沢市はコンパクトシティを目指している。中心市街地に医療や福祉、文化などの機能を集約し、中長期的に、公共交通の重要路線沿いに住宅や施設を誘導していく計画だ。川上氏は「基本は集約都市で、中心市街地の周りに里山地域の拠点をいくつか置くイメージだ。場合によっては周りの集落からその拠点へと移り住んでもらうこともある」と話した。

七年十月、市中心部に近い住宅街から家族四人で引っ越した。「家の外に一歩出たら自然が広がる。満喫しています。課題は雪ぐらい」と笑つた。金沢市は一九年度に「金沢市都市計画マスタープラン(基本計画)」を策定し、市街化調整区域にある中山間地域の拠点づくりをする計画が浮上している。土地利用の規制が緩和され、住宅の貸し出しを容認することなどが検討されている。北さんは「子どもの遊ぶ声が消えない地域であってほしい。のびのびと生活できる環境を自分たちがつくってほしい」と語り、維持していきたい」と語った。